

「事業名：福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み」 2020年度補助事業の実績・成果

東京農業大学 連携市町村：浪江町

連携市町村との協定締結日：2019年1月31日 現地拠点：双葉郡浪江町浪江町役場(3階農林水産課内)

事業のポイント

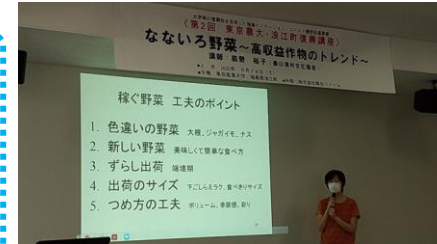
■浪江町の農業復興のボトルネックとなっている“ソフト面”を支援するため、東京農業大学の“復興知”を結集し、(株)舞台ファームと浪江町とともに「産官学一体」となって、学生を中心とした取り組みを展開し、①就農拡大への取り組み ②6次産業化推進の取り組み ③スマート農業推進の取り組みを行うことによって“復興”から一歩進んだ挑戦を含む農業の“新興”を目指す。

今年度の活動実績

- 6次産業化の推進に向けた取り組みとして「東京農大・浪江町復興講座」(対面・オンライン併用)を7回実施し、町民のニーズを反映するための参加者アンケート調査も実施した(7月～12月)。
- 新規就農、スマート農業の推進に向けて、学生による「稲刈り体験実習&ドローン講習会」を実施し、あわせて米の商品開発に向けたワークショップを実施した(10月)
- 浪江町で10月に収穫した米を「浪江復興米」として(株)舞台ファームが商品化し、道の駅「なみえ」で学生による米の販売実習を実施した(12月)。
- 町民向け学生向けに6次産業化および農業生産法人の先進事例を学ぶ「オホーツク・ウインターセミナー」(オンライン)を実施した(1月)
- 町民向け学生向けに6次産業化テキスト『6次産業化の地平』を作成した(1月)。

今年度の成果

- 就農拡大・スマート農業推進への取り組みとしては、(株)舞台ファームの協力のもと、学生が津波被害を受けた棚塩地区において10年ぶりの稲刈りを体験し、高性能のコンバインの操縦や農薬散布用のドローンの操縦体験を行うことで、将来的な担い手育成に向けての技能向上につなげることができた。
- 6次産業化推進の取り組みとして、学生が収穫した米を「浪江復興米」として道の駅で販売することで、商品の販売方法のみならず、浜通り地域の農業復興の象徴として地域・全国・海外へと発信できた。
- さらに6次産業化推進においては、東京農業大学が有する6次産業化の人材育成のノウハウや商品開発、6次産業化のケーススタディを収録したテキスト『6次産業化の地平』を発行し、普及を大々的に行うことで、今後の更なる担い手育成や6次産業化の推進に寄与することができた。



復興講座の様子



浪江町棚塩地区での稲刈り体験実習



道の駅での「浪江復興米」の販売実習